

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

千年 中学校区	校番71	福山市立 千年小 学校
最終更新日		2021年(令和3年)10月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 子どもが楽しいと思えるように、先生にとっても楽しい学校をつくってほしい。地域も協力したい。 課題が生じた場合は、担任だけではなく、管理職も含めたチームで対応してほしい。 分かりにくい学校の専門用語は、分かりやすく説明してほしい。 	児童生徒の現状 <ul style="list-style-type: none"> 人の役に立つ人間になりたいと思っていたり、将来の夢や目標を持っていたりする児童生徒が多い。 自分から進んで勉強をすることや、友だちと話し合うなどし、考えを深めたり広げたりすることなどに課題がある。 中学校では、8割以上の生徒が、地域への愛着や誇りを持っており、ボランティア活動への参加生徒は、のべ400人を超えている。 	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	「思考力・判断力・表現力」、「主体性」、「自己有用感」、「共感力」、「社会貢献心」 ○知識や経験をつないで自ら考え、他者と対話しながら、深く学ぶ子ども ○自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子ども ○地域に関心を持ち、よりよい社会づくりに貢献する志を持った子ども ・「住み続けられるまちづくりを」「海の豊かさを守ろう」のSDGsにつながる総合的な学習の時間の単元づくり ・スマホ・ゲーム等に依存しない、健康で規則正しい生活習慣づくり ・想青学園開校に向けた内海中学校区・千年中学校区の児童生徒交流 ・内海中学校区・千年中学校区合同の教職員研修、小中一貫教育推進委員会
--	---	---	---

III 自校

ミッション 子ども主体の学びづくりパイロット校として、固定観念・成功体験のリングから踏み出す教育課程の編成と取組の発信	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	スキル 思考力・判断力・表現力 表	意欲・態度 主体性 目	価値観・倫理観 自らへの自信と共感力 共
学校教育目標 学び合う		低学年 自分自身のこと、自分の考えや思いを伝える。	自分がやるべきことなどを、自分自身でしっかりと考え、自分で選ぶ(決める)。	自分の性格や得意なこと、興味関心をもっていることなど、“自分自身”を理解する。
現状 <児童> ○学びたいことや学び方を自分で考えて取り組むなど、主体的に学ぶ児童が増えてきた。 ○授業だけでなく、行事や児童会など様々な場面で、自分達で企画したり計画を立てたりして取り組むようになった。 ○毎月の生活目標の達成に向けて、各クラスで取組を考え、自分達で守ろうとする児童が増えた。児童・教師評価80% ●ことばや数の理解に課題がある。 ●体力テストの結果 県平均以上の項目57/96(59.4%) <授業> ○どの学級でも「子ども主体の学びづくり」に取り組んでいる。 ○「授業や単元の中で、児童が考えたいことや取り組んでいきたいことを決める場を設定している。」教師肯定的評価100% ●意見を共有して自分の考えを広げたり深めたりするような授業づくりに課題がある。		中学年 自分自身のこと、自分の考えや思いを、相手に理解してもらえるように伝える。	自分の目標、自分がやるべきことなどを、自分自身でしっかりと考え、自分で選ぶ(決める)。	・自分の性格や得意なこと、興味関心をもっていることなど、“自分自身”を理解する。 ・自分の良さを生かし、周りの人の役に立とうとする。
	高学年 自分自身のこと、自分の考えや思いを、相手に理解してもらえるように、工夫しながら伝える。	自分の将来の夢や目標、自分がやるべきことなどを、自分自身でしっかりと考え、自分で選ぶ(決める)。	・自分の性格や得意なこと、興味関心をもっていることなど、“自分自身”を理解する。 ・違いを認め合い、お互いに尊重し合う。	
	研究	テーマ 内容等	学ぶ喜び ～一人一人の学びを促し、共有する授業を通して～ 一人一人の学びを促し、共有する授業づくり	
	めざす授業の姿	・授業や単元の中で学びの共有を行い、自分の考えの変化を自覚する。 ・単元の最後には、振り返りを書く時間を設け、学んだことや学び方を振り返る。		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立千年小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策	
1	「子ども主体の学びづくり」の推進	★	新規	①「なぜ？」と考え続けている。 ②「自分で学び続けている。(課題解決に向けて計画・選択できる)」 ③「学びが楽しい。」 児童肯定的回答 90%以上	①単元の最後に振り返りを書かせ、学びや学び方を振り返らせる。 ②授業や単元の中で学びの共有を行い、自分の考えの変化を自覚させる。	①自分が単元で学んだことや学び方の振り返りを書くことができている児童 教師評価 90%以上 ②「単元の中で1回以上は学びの共有を行い、児童自身の考えの変化を自覚させる場を設定している」 教師肯定的回答 100%	◎学期末児童アンケート 児童肯定的回答 ①75% ②81% ③86% □自分が単元で学んだことや学び方の振り返りを書くことができている児童 教師評価 87% □「単元の中で1回は学びの共有を行い、児童自身の考えの変化を自覚させる場を設定している」 教師肯定的回答 93%	3	3	・引き続き、単元の中で1回以上は学びの共有を行い、自分の考えの変化を自覚させていく。 ・考える基礎としての「ことばや数」に対する理解を深めていくために、教師がことばにこだわりをもち、ふさわしいことばを選んで使うように意識する。また、パワーアップタイムなどでゲームを通じた取組を行っていく。				
2	自己肯定感の育成		継続	「自分にはよいところがある。」 ・学期末児童アンケート(7・12・2月上旬) 児童肯定的回答 85%以上	①児童会の生活目標を取り入れた活動を行い、よりよい自分の習慣づくりに取り組む。 ②お互いのよさを見つけ合い、認め合う場の設定を行う。	①児童会の生活目標から自己の取組ができた児童 児童自己評価、教師評価の平均 80%以上 ②友達の得意なことや自分の得意なことを知ることや増やすことができた児童 児童肯定的回答 80%以上	◎学期末児童アンケート 児童肯定的回答 79% □「生活目標から自己の取り組みができた」 児童評価 78% 教師評価 89% 平均 84% □「友達の得意なことや自分の得意なことを知ることや増やすことができた」 児童肯定的回答 87%	3	3	・学活の時間や日常生活の中で、児童が相互評価をする。 ・キャリアファイルで、学年始めの自分の目標を再確認し、到達度を知ることによって、2学期への意欲をもたせる。 ・全員で取り組もうと決めたことについては、定期的に意識付けをする。 ・自分や友達の良さに気づくような授業形態をとった後、交流場面を設定する。				

5	基礎体力の向上	継続	<p>○基礎体力向上の推進</p> <p>・体力テスト結果 県平均以上項目 63/96以上</p>	<p>①運動の心地よさ、体を動かすことの楽しさを感じることのできる場の設定</p> <p>②体力テスト結果をもとにした早期からの自己目標の設定</p>	<p>①体を動かすことが楽しいと感じる児童 児童肯定的回答 85%以上</p> <p>②自己課題1種目を設定し、体力向上を達成する。 体力向上を達成する児童の割合 80%以上</p>	<p>◎体力テスト結果 県平均以上項目 34/86 種目</p> <p>□学期末児童アンケート 「体を動かすことが楽しい」 児童肯定的回答 88%</p>	3	3	<p>・学級遊びや体育の授業等で体を動かす機会をできるだけ設け、運動への意欲を高める。</p> <p>・体力テストの結果をもとに、自己目標を決め、体力向上に取り組むよう指導を継続する。再テストは12月に実施する予定。</p>
3	働き方改革	★ 継続	<p>○働き方改革の推進</p> <p>・時間外勤務 月 45時間未満 年間360時間未満 達成率100%</p>	<p>・時程の見直しによる週1回の定時退校日の確実な実施</p> <p>・業務の見直しの場の設定(日常的に)</p> <p>・入校、退校時刻記録の確実な入力と自己管理</p> <p>・三者懇談前など、勤務時間内に成績の整理等ができる時間の確保</p>	<p>・「教育活動に意義ややりがいを感じる」 教師肯定的回答 100%</p> <p>・「授業づくりにあてる時間確保」 教師肯定的回答 90%以上</p>	<p>◎時間外勤務 45時間未満 100%</p> <p>□「教育活動に意義ややりがいを感じる」 教師肯定的回答 100%</p> <p>□「授業づくりにあてる時間確保」 教師肯定的回答 100%</p>	4	4	<p>・引き続き週1回の定時退校日を確実に実施し、自己管理を行う。</p> <p>・2学期も、1学期同様に時間割変更を行い、三者懇談前に、勤務時間内に成績の整理等ができる時間を確保する。</p>

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。